

コロナ禍の影響を受けた大学生に対する
アンケート調査報告書

2020年11月

認定 NPO 法人フードバンク山梨



I. 調査の経緯と今後の展望

認定 NPO 法人フードバンク山梨
理事長 米山 けい子

【調査の経緯】

認定 NPO 法人フードバンク山梨の活動は、2008 年から始まり、今年で 12 年目の活動となります。これまで、児童扶養手当を受けながら乳幼児を育てる世帯、就学援助を受けながら小中学生を育てる世帯、また行政窓口と連携して生活に困窮する世帯への食料支援を実施してきました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で大学生の困窮が社会的に顕在化し、法人としてはじめてとなる大学生への支援が 7 月より始まりました。

支援を開始するにあたり、県内大学へ食料支援の必要性の有無をアンケート調査しました。その後 2 校から要望があり、緊急で校内にて食品の配布を実施しました。米、レトルト食品、パンなど一人につき約 15 kg の食品を手渡した現場で、大学生の困難な状況を目の当たりにしました。そのような状況を受け、新型コロナウイルス感染症が大学生に与えている影響を可視化し、今後、より充実した支援につなげる必要性を感じ、本調査を実施いたしました。

【考察】

本調査における食生活に関する質問では、食事量を減らしたり、食事の内容に影響があると回答した割合の合計が 63%でした。記述回答には、「食費を削るのに精一杯です」、「金銭的に厳しく、食費を減らしている」などの声がありました。

またコロナ禍で不安を感じたのは 66%でさらに退学を考えた学生も 79 人中 8 人（10%）いました。加えて将来希望する職種を変更したと回答した学生も 14%となり、これからコロナ禍でその割合がより一層高まっていくことが危惧されます。

生活面での不安とともに、一人暮らしが多いため、コロナ感染予防で人にも会えず、孤独を感じている学生からの声が多くあり、精神面においてのサポートも必要となっています。

【今後の展望と課題】

調査によって明らかになった困難な状況に置かれた大学生を支援するために、12 月には追加の食料支援を実施します。インターネット上で申請を受け付け、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今回は大学構内で直接手渡すのではなく宅配で一人一人に届けます。追加支援の申込書には「毎日食費を削っている」「食べてはいるが、満足には食べていない。節約で食べない時もあります」「2 回目の支援もしていただきたいです」「古いお米でも構いませんで主食を多めにいただけるとありがたいです」などあり、食事にも事欠く状況が汲み取れた。

当団体では、これから社会を担う大学生が夢や希望を失わないよう、社会全体で支えていく必要があると考えています。



II. 調査の概要

1. 調査の目的

コロナ禍で経済的な影響を受けた大学生の現在の生活状況、困っていることや必要としている支援について明らかにすることを目的としている。

2. 調査について

調査対象	山梨大学 学生	都留文科大学 学生
調査方法	7月に食料支援を実施した学生に対して、11月に Google フォームにて実施	食品を手渡しした会場内でアンケート用紙に記入していた
調査期間	2020年11月2日～9日	2020年10月19日
調査学生数	72	37
回収数	42	37
回収率	58%	100%



Ⅲ. 調査結果の要点

1. 性別 (P5)

- ・ 性別は女性が 57%、男性が 43%だった。

2. 出身 [県外 or 県内] (P6)

- ・ 学生のうち県外出身が 87%、県内出身が 12%、留学生が 1%だった。

3. 1 人暮らしの割合 (P7)

- ・ 1 人暮らしの学生が 94%、一人暮らしではない学生が 6%だった。

4. 仕送りの有無 (P8)

- ・ 1 人暮らしの学生のうち、仕送りのある学生は 43%、仕送りが無い学生は 57%だった。

5. コロナの影響での仕送り額について (P9)

- ・ 仕送りがある学生のうち、コロナの影響で仕送りが減った学生が 69%、影響なしという学生が 31%だった。

6. アルバイトを現在しているか、もしくはしたいと思っているか (P10)

- ・ アルバイトを現在している、もしくはしたいと思っている学生が 96%、そうではない学生が 4%であった。

7. コロナの影響でアルバイトに変化はあったか (P11)

- ・ アルバイトのシフトが減ったと回答した学生は 62%だった。
- ・ 休業でアルバイト先を変えたと回答した学生は 18%だった。
- ・ アルバイト先が見つからないと回答した学生は 9%だった。
- ・ 影響がなかったと回答した学生は 17%だった。

8. 一日の食事回数について (P12)

- ・ 一日の食事回数が「2 回」は全体の 47%で、そのうち 27%が「節約のため、一日の食事回数を減らしている」だった。
- ・ 一日の食事回数が「3 回」は全体の 52%で、そのうち 32%が「節約のため、一回の食事量を減らしている」だった。



9. 食生活の変化について (P13)

- ・ 食事は十分に食べていると回答した学生は、45%だった。
- ・ 1回の食事量を減らしていると回答した学生は、24%だった。
- ・ インスタント食品が増えたと回答した学生は、24%だった。
- ・ 一日の食事回数を減らしていると回答した学生は、17%だった。
- ・ 炭水化物だけの食事が増えたと回答した学生は、17%だった。

10. コロナ禍で退学を考えたか (P14)

- ・ コロナの影響で、退学を考えたと回答した学生は 10%だった。

11. コロナ禍で将来の不安を感じたか (P15-16)

- ・ コロナの影響で将来の不安を感じたと回答した学生は 66%、感じないと回答した回答した学生は 34%だった。

12. コロナ禍で将来希望する職種、業種を変更したか (P17)

- ・ コロナの影響で、将来希望する職種、業種を変更したか、という設問に「はい」と回答した学生は 13%、「いいえ」と回答した学生は 87%だった。

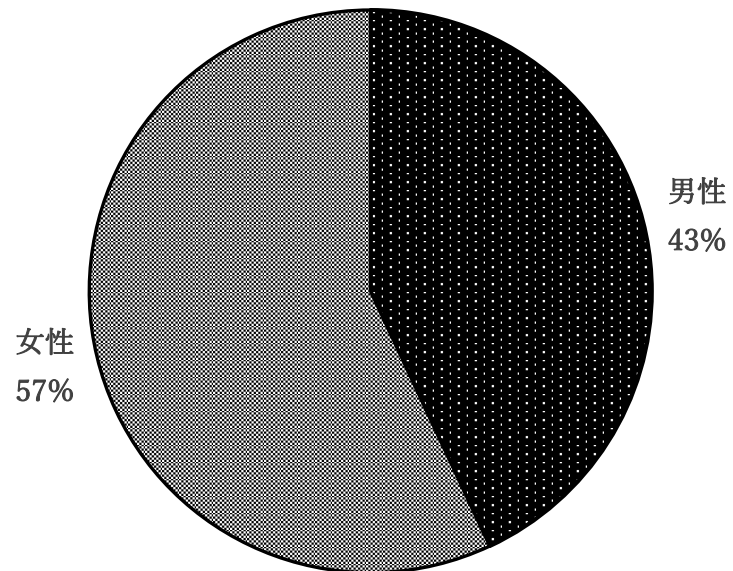
13. 今、困っていること (P18-22)

- ・ コロナの影響を受け、学生が今困っていることとして生活面では 38%、学業面は 28%、精神面は 28%、その他 6%という割合だった。



V. 調査結果

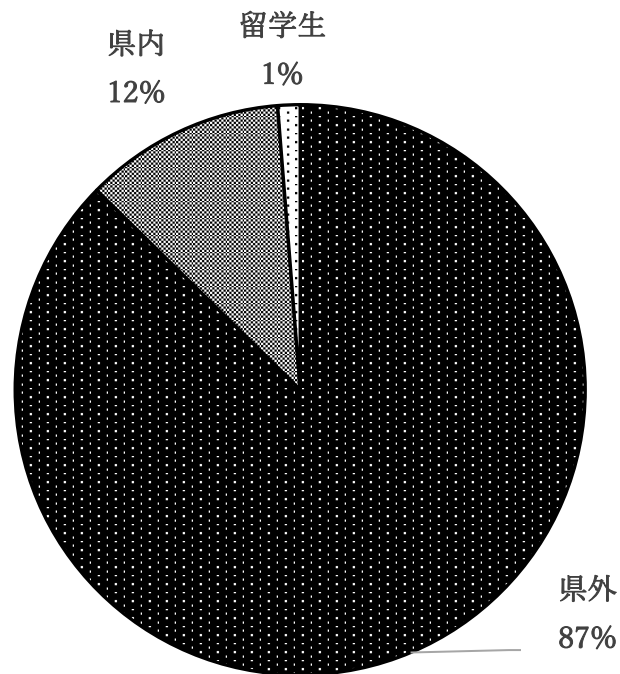
1. 性別 (n=79)



性別は、女性が 57%、男性が 43%だった。



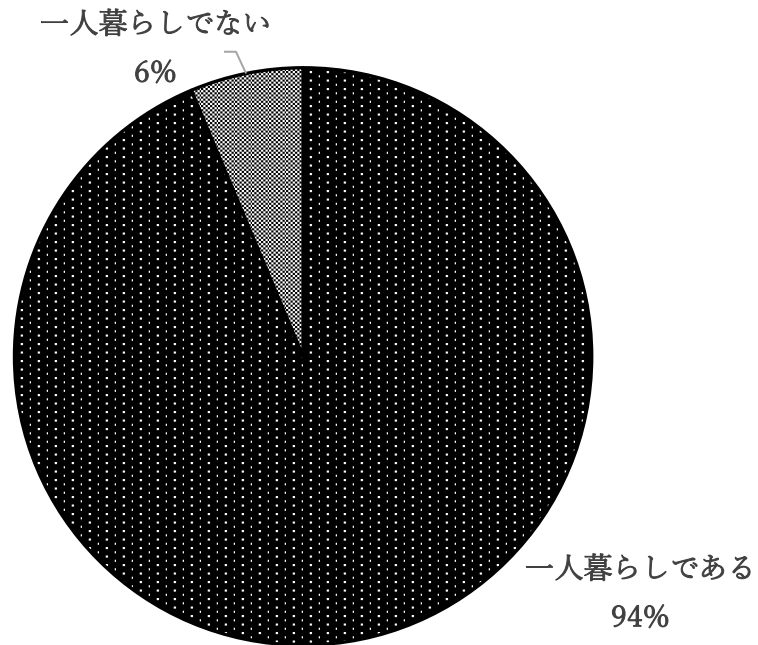
2. 出身 [県外 or 県内] (n=79)



割合の多い順では、県外が 87%、県内が 12%、留学生が 1%だった。



3. 一人暮らしの割合 (n=79)

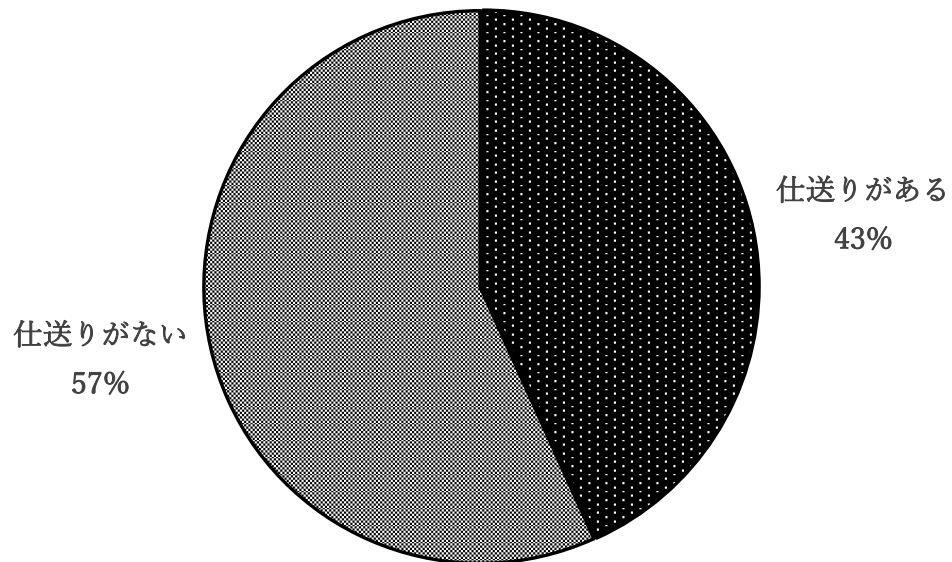


1人暮らしの学生の割合が94%、一人暮らしではない学生が6%だった。



4. 仕送りの有無 (n=74)

※前問で、「一人暮らしである」と回答した学生数 (n = 74)

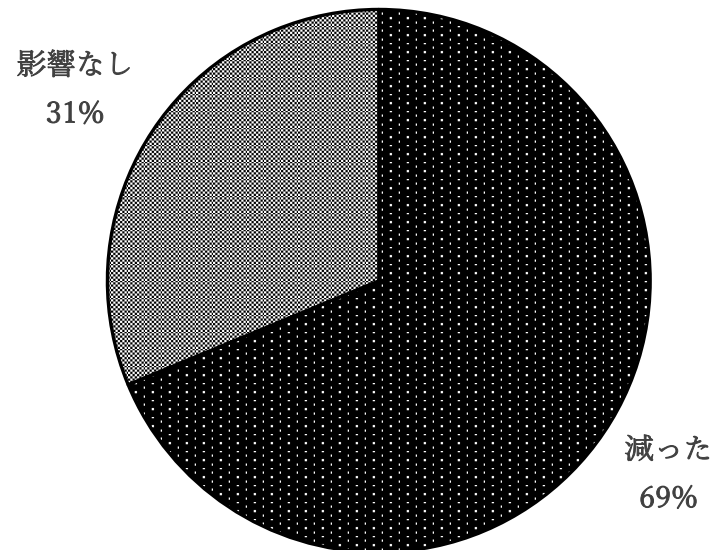


1人暮らしの学生のうち、仕送りのある学生は43%、仕送りがない学生は57%だった。



5. コロナの影響での仕送り額について (n=32)

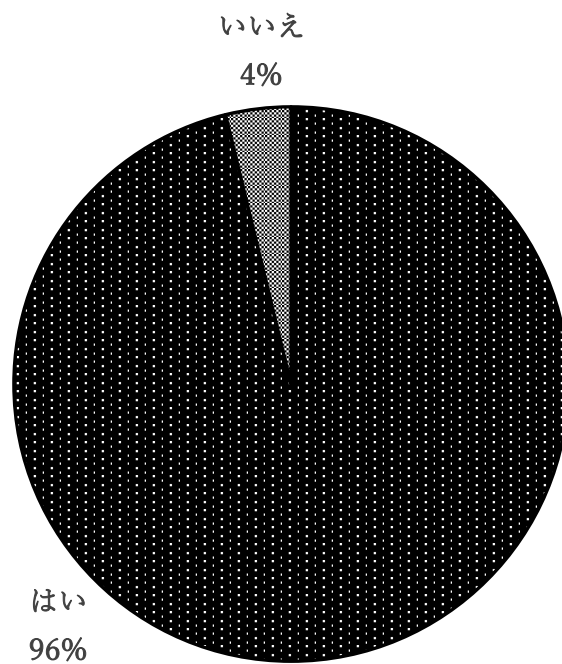
※前問で、「仕送りがある」と回答した学生数 (n = 32)



仕送りがあると回答した学生のうち、コロナの影響で仕送りが減った学生が 69%、影響なしと回答した学生が 31%だった。



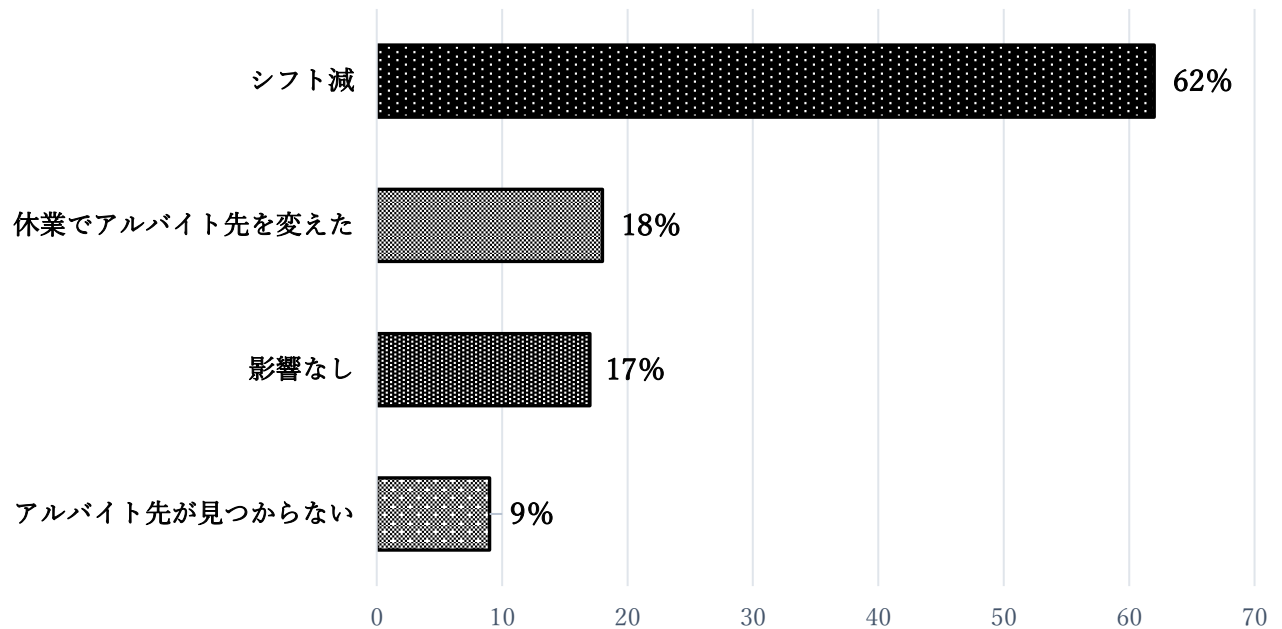
6. アルバイトについて「現在しているか、したいと思っているか」(n=79)



アルバイトを現在している、もしくはしたいと思っていると回答した学生が 96%、したいと思っていないと回答した学生が 4%だった。



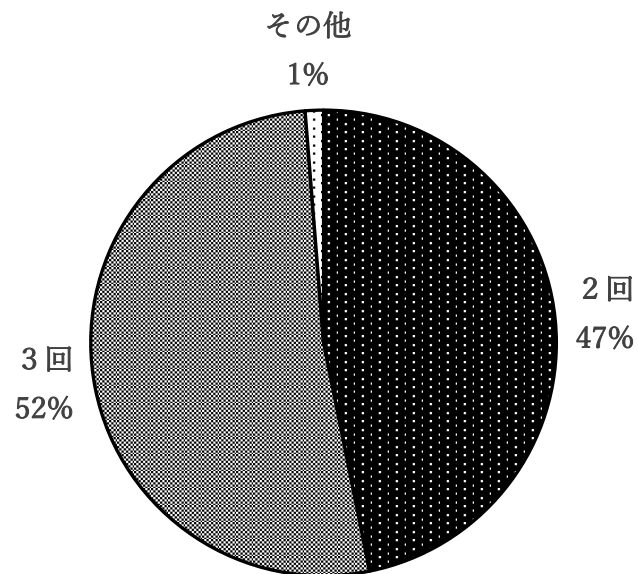
7. コロナの影響でアルバイトに変化はあったか（複数回答）



アルバイトをしている学生のうち、コロナの影響を受けて、シフト減、休業でアルバイト先を変えた、アルバイト先が見つからないという回答した学生が、全体の 89% だった。一方影響がなかったと回答した学生は 17% だった。



8. 一日の食事回数は (n=79)

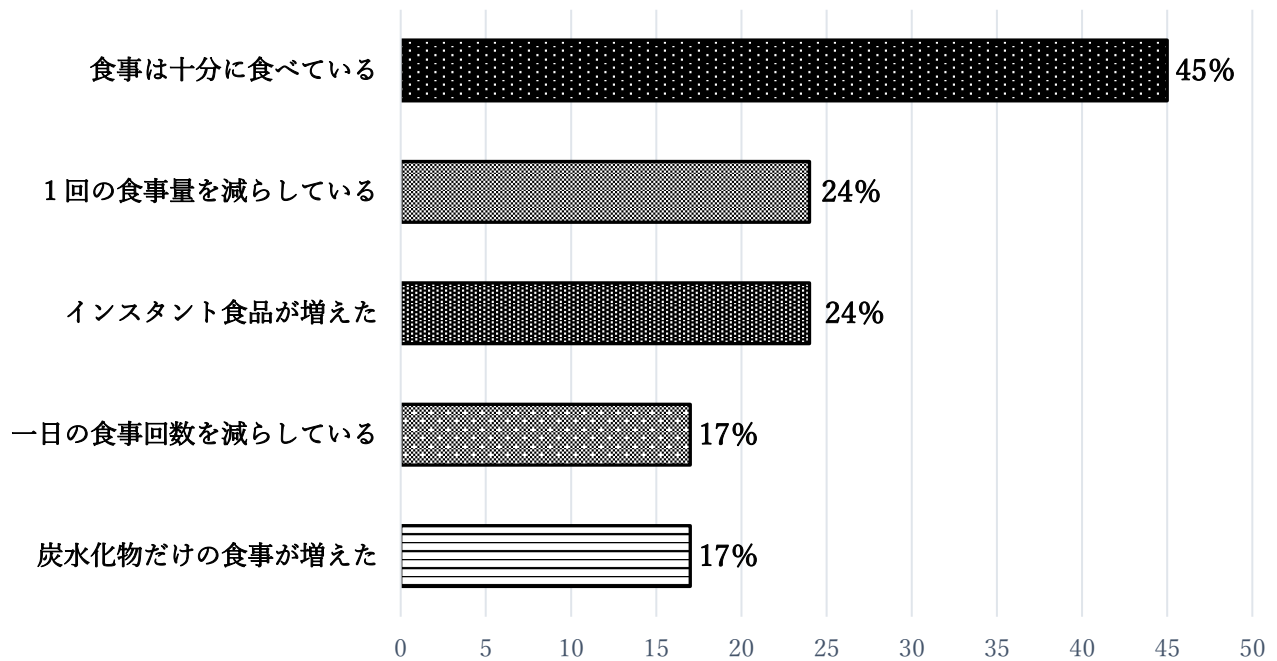


一日の食事回数が「2回」は全体の 47%で、そのうち 27%が「節約のため、一日の食事回数を減らしている」だった。

一日の食事回数が「3回」は全体の 52%で、そのうち 32%が「節約のため、一回の食事量を減らしている」だった。



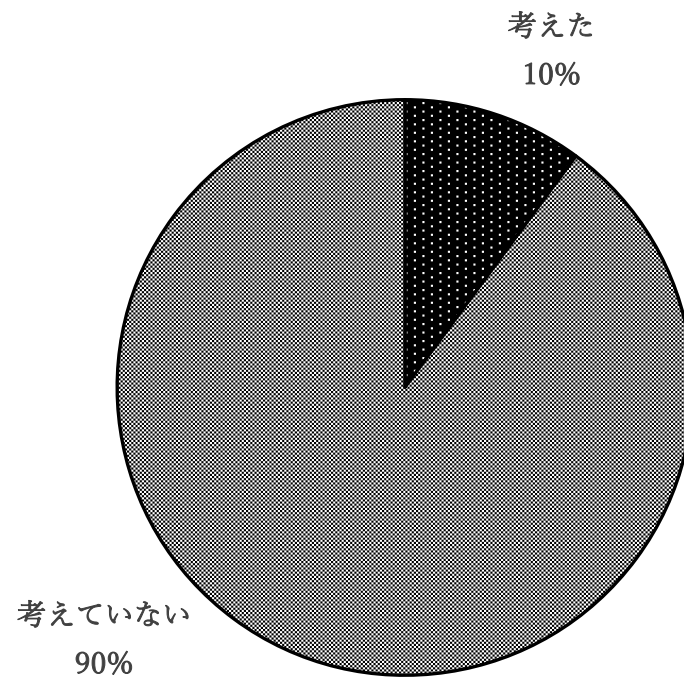
9. 食生活の変化について（複数回答）



食事は十分に食べていると回答した学生は 45%、1 回の食事量を減らしていると回答した学生は 24%、一日の食事回数を減らしていると回答した学生は 17%だった。



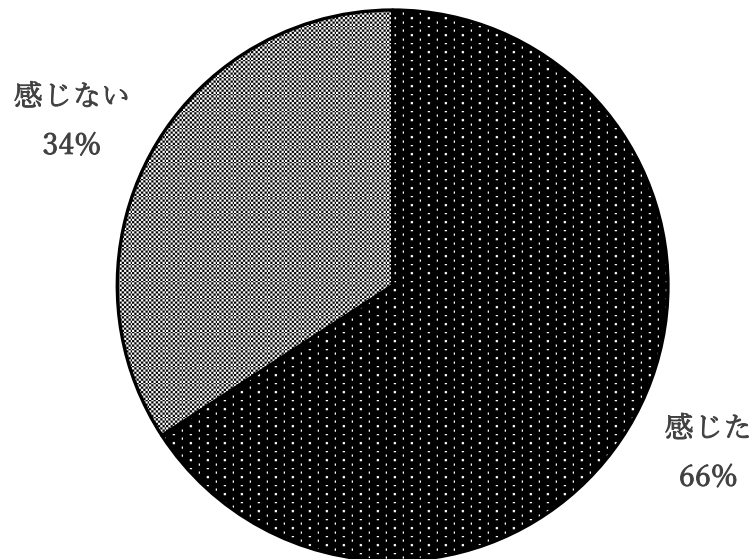
10. コロナ禍で退学を考えたか (n=79)



コロナの影響で、退学を考えたと回答した学生の割合は 10%だった。



1 1. コロナ禍で将来の不安を感じたか (n=79)



コロナの影響で将来の不安を感じたと回答した学生は 66%、感じないと回答した学生は 34%だった。

<不安を感じたと回答した学生の記述回答>

◆学生生活について

- ・ 授業料と入学金を期限に払えない恐れがあると思う。
- ・ 就活のために、バイトを減らしてもいいように貯蓄していたが、貯蓄が無くなった。3年、4年になってもバイトを減らせず、このまま勉強も就活も中途半端になるだろうと不安を感じた。また、就職先があるだろうか、卒業後生活できるのかと不安になった。"
- ・ 奨学金を借りてまで進学したのにまとめに学べず仕事に活かせないと感じたため。
- ・ 卒業までになんとかなるのか。
- ・ 留学ができない。
- ・ アルバイト収入が最大で4分の1程度に減少し、貯金を切り崩して生活しなければ行けなくなった。
- ・ 大学生活の間、ずっとどこにも出掛けたり、経験を積んだりできないのではないかと不安です。
- ・ インターンがオンラインになったことで、参加者がとても増えて、希望していたインターン先の受け入れがとても厳しくなってしまった。
- ・ アルバイトでお金がかせげないので生活が不安。
- ・ 親の職業を直激したので不安になった。
- ・ このまま教師になる夢を目指していいのかと金銭面的に考えました。

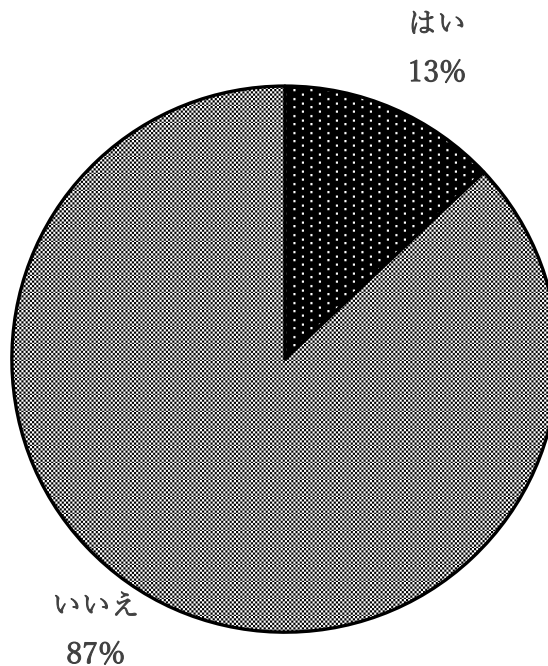


◆就職について

- ・ 21 卒で就職活動をしていたため、内定をもらえるか不安だった。
- ・ 学校現場での仕事量の増加。
- ・ 雇用の減少など。
- ・ 仕事を探すこと。
- ・ 就職が例年と比べると大変なように感じました。
- ・ 就職を考えると、コロナによる不況・採用減少の影響が非常に気になる。
- ・ 教職に就く予定なので、今年実習に行ってコロナ対策しながらの授業が不安です。
- ・ 将来自分がつきたい仕事につけるのか。
- ・ どのような仕事が続けられるか。
- ・ どのような仕事がつけば良いか分からなくなった。
- ・ 就職に影響はないのか。
- ・ 元々就職したいと思っていたところが、今年募集をやめていた。
- ・ コロナ禍の中で就活が無事終わるのか。
- ・ 就職、世界経済。
- ・ "就職活動がうまくいくか不安に感じていました。これからも就職先で給料が減ることがあるのではと不安です。"
- ・ 将来の仕事に関しての不安がある。
- ・ 就職先が見つかるか心配になった。
- ・ 就活がうまく行かなかったので、無事社会人になれるか不安だった。
- ・ 就活の際の困難が想像されるようで不安を覚えます。
- ・ 来年は引っこすので、そこでどんな感じになるのか不安です



12. コロナ禍で将来希望する職種、業種を変更したか (n=79)



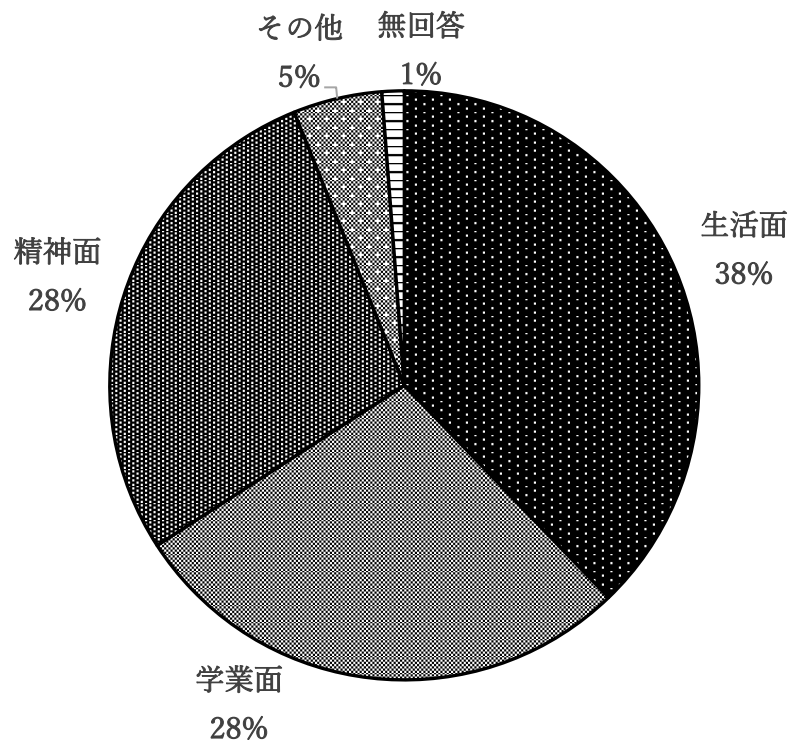
コロナの影響で、将来希望する職種、業種を変更したか、という設問に「はい」と回答した学生は13%、「いいえ」と回答した学生が87%であった。

<変更したと回答した学生の記述回答>

- ・ 接客業から事務に変えました。(シフトが入れなくなったため)
- ・ 研究者として挑戦したい気持ちがあったが、妹のことも考え親を手伝おうかと。
- ・ 公務員
- ・ 教育やサービス業⇒進学して、安定した税理士へ。
- ・ 企業⇒公務員
- ・ エアライン (CA) を目指していたが、採用がなくなった。
- ・ 観光系の仕事がなくなった。
- ・ 営業から事務職へ。
- ・ 安定を求め公務員を希望するようになった。
- ・ 国際系をやめた。
- ・ 院に行くようにした。



13. 今、困っていること、求める必要な支援（複数回答）



コロナの影響を受け、学生が今困っていることとして生活面では 38%、学業面は 28%、精神面は 28%、その他 6%という割合であった。

<学生記述回答>

◆生活面

金銭面	・ お金を節約するためにがまんしないといけないこと。 ・ もともと金銭的によゆうがなかったので、金銭面での支援があるとうれしいです。 ・ お金が少ない。 ・ 正直、現金が欲しい。 ・ Financial difficulties ・ 奨学金欲しいです。 ・ 収入源である父の収入が減らされ、私自身バイト先でコロナの影響もあり、シフトが減ってしまいました。 そのため、生活費が足りず一日の食事回数、1回の食事量を削減せざるを得ない状況になっております。 ・ 金銭的不安、食費などを削る必要があるのでその点の支援が欲しい。 ・ 仕送りは家賃だけなのでお金がないこと。 ・ お金について。アルバイトしていないこともあるが、全体的にお金が足りない（食費、生活費、交友費など）
-----	--



食費	・ 自炊する回数が増えた、食料品を安くする。 ・ 食費がたくさんかかるので、食料配布があるとうれしいです。 ・ 野菜などが高い時に買うのをためらってしまう。 ・ 食費をおさえようとしてもかなり多額になってしまう。 ・ 食費がかかる、お金がない⇒フードバンクありがたいです。 ・ 食費を削るのに精一杯です。 ・ 金銭的に厳しく食費を減らしている。 ・ 野菜が高い。野菜を安く売ってもらう or ビタミンを取れる食品を貰えるような機会が欲しい
生活費	・ 生活費が足りない。 ・ ガス代が高いこと、家賃が高いこと。 ・ ネット料金が嵩んでいる。冬の暖房費も心配。 ・ マスクやアルコールにかかる費用。 ・ 随分とコロナによる影響が減ってきたためあまりありませんが、マスクの使用量が非常に多く、その費用が意外と無視できない額な点。 ・ 進学する際の費用。食費、生活費。 ・ 家賃が高くて今後も払えるか心配。 ・ 生活費の増加。在宅時間が伸びたことで光熱費が大きく増加したり、食費への影響が出たりしている。食料品等の配布は非常に助かるが、定期的な開催をしていただけると、なお嬉しい。 ・ 生活費を減らすなど、人との付き合いの少ないので、ストレス掛かります。
バイト	・ 電車の本数が減ってしまい、アルバイトに入れる日数が減ってしまった。 ・ アルバイトが減っていること、食料支援があるとありがたいです。 ・ アルバイト、店が少ないので雇用があると良い。 ・ アルバイトが減ったので昨年より収入が減ったこと。 ・ 短期のアルバイトがしたい。長期のバイトは雇って貰えない。 ・ バイトに入れないのでお金が無い。 ・ アルバイトが少なく、十分なお金がないので食料だけでもいただけるとありがたい。 ・ バイトに希望通り入れない。 ・ バイト先を紹介してほしい。 ・ 続けられるバイト。 ・ 就職前後の出費に備えて貯めていた貯金がほとんどなくなり、論文執筆期間に入ってもアルバイトで収入を得ないと生活できない。 ・ アルバイト収入が減り、生活費に少し困っています。また、食品の提供をしていただけるととても助かります。



精神面	・ 家にずっといるため、気分が晴れない。 ・ 特に誰かに咎められると言うわけではないけれども外出に関して自粛をしないとイケないという気持ちが非常にストレスとなっている。具体的には買い物に行くことさえも躊躇してしまうこと。 ただ特に支援で解決する問題ではないと思う。
その他	・ 生活のみだれが少しあるので、頑張って直しています。 ・ 生活圏の縮小。 ・ 外出が不便になりました。 ・ インスタント食品以外の摂取。 ・ 保存性の高い食料の支援。 ・ 食について。 ・ 料理をあまりしてこなかったが、節約のため料理をするようになった。料理のレシピや手本を知りたい。

◆学業面

オンライン	・ No internet for online programs ・ オンラインが多く WiFi が必要なので WiFi 代がかかる。 ・ オンラインと対面のハイブリッドで大変であるため、どちらかに絞って欲しい。 ・ オンライン授業なので教授などへの質問がしづらく中途半端な理解のままになってしまうことがある。 ・ オンライン授業が辛いです。 ・ オンライン授業⇒課題が本当に役に立っているのか不安。 ・ オンラインなので対面が増えてほしいです。 ・ オンラインと対面の授業があるため移動が大変だと感じます。 ・ ずっと機会の画面をみているので、目・頭への負担が大きい。 ・ オンラインなので分かりにくいときもある。 ・ オンラインなので十分に理解できない。 ・ オンライン授業が増え、授業の質的低下を不安に思います。
設備不安	・ オンライン設備の充実。 ・ PC等の節備、プリンターなど。 ・ オンライン授業の際、家にパソコンが無いこと。 ・ リモート授業でスマホの通信制限がきたり、容量が足りなくなったりする。
授業内容	・ 進級に必要な単位の為に受けなければいけない試験に対して、従来と同じだけの授業数あるいはフォローアップが足りないのにも関わらず試験の難易度等が変わらないことへの不満。 ・ 対面授業が全部できないこと。 ・ 実験が続けられないので、きちんと修了できなきゃ。 ・ 学習サポートの減少。



課題増	・ 授業がなく無駄にレポートばかり多い。 ・ 対面がないため、課題がふえたこと。
コミュニケーション	・ クラスメイトとの交流が減りました。 ・ 他者とのコミュニケーションの場がない（授業の話とか）。 ・ 授業料の軽減、納める期限の延期。
精神面	・ 勉強のモチベーションが上がらない。 ・ 生活がギリギリで、切り詰めていかなければならないので、精神面でもかなり大きな影響を受けている状況です。
その他	・ 就職が不安。 ・ 生活費が捻出できず、アルバイトを続けているため、学業だけに集中できない。

◆精神面

コミュニケーション	・ オンライン授業では新たに友達を作ることができない。 ・ 対面授業が少なく、あまり友人ができないことを不安に思っている。 ・ 友達に会いづらい（オンライン授業のため）。 ・ 大学の友達ができにくいいため、もっと学生同士で話せる場がほしいです。 ・ 友達がなかなかできないので寂しい。 ・ 他者とのコミュニケーションの場がない（コロナで一人なので）。 ・ 友達と会えない。
孤独感	・ 生活が厳しくなったときの相談相手。 ・ 人に会う機会が減った。 ・ あまり人に会えないこと。 ・ 悩みを打ち明ける相手がいない。 ・ 孤独感が大きい。 ・ 1人であることが多くなり、最初はさびしいと思うことが多かった。 ・ つらい時に相談できる窓口がない（保健センターは少し苦手なので外部の方がいいです）。
気持ち	・ 気分がよくないけど、求める支援今は特にありません。 ・ コロナ禍での一人暮らしが思ったよりキツイ。 ・ 生活も学習も、ストレスが掛かります。 ・ 一人暮らしのモチベーションがないので、モチベーションがあがる何かがほしい。 ・ 遠出する機会が減って、少しストレスを感じる時がある。 ・ 卒業旅行に行けなくなりそう。出かけたいたのに出かけられない。 ・ 外出が減りがちになるので、どうしてもストレスがたまりやすいように思います。
家族に会えない	・ 実家に帰省できないためホームシックになっている。 ・ 家族と会えず、とても寂しいです。 ・



金銭面	・ 時間に余裕が無く、常に鬱屈とした気分。 金銭的支援、食事支援。 ・ 金銭的な支援が欲しい。節約について考えたくない。 ・ 生活がギリギリで、切り詰めていかなければならないので、精神面でもかなり大きな影響を受けている状況です。
-----	--

◆その他

- ・ 料理の作り方。
- ・ 祖母がコロナにかかることが怖くて、買い物に行けなくなったり、うつっぽくなったりしているらしく心配。
- ・ 収入がほぼないこと。
- ・ 研究室以外に抛り所がない。